



京都府立
久美浜高等学校

学校だより

第4号

住所 京丹後市久美浜町橋爪65

電話 0772(82)0069



京都府立
丹後緑風高等学校
久美浜学舎

1・2年次生 カヌー実習



7月14日(水)、久美浜湾カヌー競技場で1・2年次生59名がカヌー実習を行いました。

この実習は久美浜高校で37年間続いてきた伝統の学校行事です。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりましたが、今年度は感染対策をしっかりと行い、1・2年次生合同で実施することができました。

当日は晴天と最高の水上コンディションに恵まれました。生徒の多くが初めてカヌーに乗るため、最初は怖がっていましたが、乗艇してからは水上の気持ちよさと、友達と一緒にカヌーを漕ぐ楽しさを味わい、全員笑顔でカヌーに乗っていました。1人乗りのポロカヌーと10人乗りのドラゴンカヌーを体験し、中でもみんなで息を合わせて漕ぎ進めるドラゴンカヌーでのレースは白熱しました。丹後緑風高校久美浜学舎でしか体験できないカヌー実習を通して、海で安全にレジャーを楽しむことを学びました。「海サイコー!!」「カヌー楽しい!!」という声が多く聞かれる実りの多い実習となりました。



学校祭において 文化祭の取組佳境

本校の学校祭は、「文化祭」と「体育祭」で構成されます。第一弾となるのは文化祭。9月7、8日の文化祭に向け、夏季休業前から各クラスでの取組が始まりました。今年度も新型コロナウイルス感染症対策・熱中症対策のため、各教室をミニシアターとして利用し、活動期間に制作したショートムービーを上映します。夏季休業中ですがキャスト、撮影班が集まり、動画の制作に取り組んでいます。また、教科や文化部の展示なども

第2体育館で行うため、文化部は作品の制作に励んでいます。

保護者の皆様には、文化祭当日、第1・第2体育館での作品上映と展示を御覧いただけます。お子様の成長と活躍をお楽しみに、十分な感染対策のうえで御来場ください。



(画像は昨年度文化祭の様子)



学校ホームページでも様々な情報を発信しています。ぜひ御覧ください。
←丹後緑風高校久美浜学舎ホームページ 学校紹介動画(YouTube)2021年版→
<http://www.kyoto-be.ne.jp/tangoryokufuu-hs/mt/kumihama/>



進路の取組

夏季進学講座

この夏も四年制大学への進学を希望する生徒を対象とした夏季進学講座を行っています。最大で18日間の講座を開き、1年次生と2年次生は英語、数学、国語の3教科を午前中に、3年次生は英語、数学、国語、理科、地歴・公民の6教科を午前と午後を通して受講しています。参加したすべての生徒がしっかりと力を伸ばせることを期待します。

これまでの学習成果を測るため、8月21日には模擬試験を実施しました。3年次生は模擬試験の結果を見て、いよいよ受験本番に向かっていきます。

自分自身の進路決定に、全力で臨む皆さんを、教職員一同全力で応援します。



就職活動スタート！

3年次生の就職希望者は8月現在で35名です。夏季休業中の前半で複数の会社を見学し、より自分に適した仕事を見極めるために、自分の足で情報を集めています。その表情も少しずつ真剣なものに変わってきました。

お盆明けからは、いよいよ応募会社を決定し、履歴書書き、面接練習と、本格的な取組が始まっています。日々の生活の中で、責任ある発言、行動を意識し、社会人としての資質向上を目指します。

京都府学校農業クラブ連盟大会 2年 松江勇太 さん「優秀賞」



7月23日（金）、京都市の「あうる京北（京都府立ゼミナールハウス）」で第72回京都府学校農業クラブ連盟大会が開催され、本校からは、会場運営に本部役員2名が参加した他、意見発表に3名の生徒が出場しました。

Ⅲ類（ヒューマンサービス）の発表で、2年松江勇太さん（久美浜中学出身）が、優秀賞を受賞しました。



第一線の研究者に学び、現役大学生と協働研究を体験する！ ウィキペディアタウン宇川に久美浜高校生2名参加

7月25日（日）、丹後町を流れる宇川に生息するアユについて、上宇川漁協の網漁を見学し、20年にわたって生態調査を続けられた瀬川信一氏の講演を聴き、その内容を文献調査と紐付けてオンライン百科事典Wikipediaに新項目「宇川のアユ」を作成するという地域探究活動ウィキペディアタウンが開催されました。丹後町東部の宇川地域の活性化に取り組む龍谷大学「宇川スマート定住促進会議」が企画したもので、本校の学校図書館司書がWikipedia編集講師として継続的に参画しています。

今回は、学校での探究授業で環境問題をテーマとしていた3年次生の安達雄馬さん、中江絵里香さんが参加し、龍谷大学生5名や地域のみなさんとともに、アユの生態研究地として国際的に知られる河川の環境と、

国営農地やダム建設などの地域開発との関連などについて学びました。

現役の大学生とペアを組んで文献調査し、「宇川のアユ生息環境」節の執筆に参加した安達さんは、「こうした学習は大学でもやっていくことになると思うので、高校生のうちに体験することができて良かった。」と語り、9月に峰山町で開催される同種の地域企画にも関心を高めていました。

この取組の様子は、8月1日発行の読売新聞の折り込み「読売たんごニュース」や、京丹後市ケーブルテレビでも紹介されました。

